

星屑

2015 年 12 月号

No. 489



「阿蘇の上の金星、木星、火星、水星」 2015/10/19 5h24m(JST)

F4.5 f25mm Exp30s 1/2 速度追尾 Nikon D90

場所 阿蘇二重峠 高田氏撮影

熊本県民天文台

宮本幸男さんを偲んで

先月号の艶島台長、小林副台長の記事でお知らせしましたように、去る9月に台長であり天文台設立にご尽力された宮本幸男さんが逝去されました。故人を偲んで、親交があった天文台のメンバーに氏との思い出やエピソードを書いていただきました。

略歴

大正 10(1921)年 誕生。

昭和 15(1940)年 日大工学部入学。

昭和 21(1946)年 揚子さんと結婚。

昭和 41(1966)年 熊本天文研究会の発足の活動を始める。

昭和 43(1968)年 熊本天文研究会発足 理事になる。

昭和 46(1971)年 「ライトシュミットカメラ」を、アマチュアとしては日本で初めて自作。「天文ガイド」の設計制作記事が反響を呼ぶ。

昭和 57(1982)年 熊本市立博物館プラネタリウム解説員。

熊本県民天文台が完成。副台長就任。

昭和 58(1983)年 熊本県民天文台台長就任。インドネシアジャワ日食。

昭和 61(1986)年 ハレー彗星観測のためオーストラリアへ。

昭和 63(1988)年 第1回清和スターフェスタ。

平成 3(1991)年 ハワイ島日食。

平成 4(1992)年 チロ賞受賞。

平成 5(1993)年 清和高原天文台初代台長就任。

平成 19(2007)年 熊日「私をかたる『天翔る夢少年のごとく』」連載

平成 27(2015)年 逝去



建設中の熊本県民天文台(城南町藤山)のピラーの前でメンバーと。
宮本氏は一番左端。(1982)

宮本 幸男さん ありがとう!

永井 剛

大学卒業後の私は九州文学院(現・ルーテル学院)の中学・理科の教師をしていて、初めて中学1年3組の担任になり、生徒の家庭訪問が始まりました。その最初の日、2軒目にお伺いしたのが宮本さんのお宅でした。このお宅で数十年後に反射望遠鏡の鏡みがさを教めることになるのです。

その後、昭和42年4月から西岡先輩のお世話で、熊本市の博物館に勤務することになり、仕事も専門の岩石より天文の方が多くなりました。毎月の星を見る会では、先輩のあとを受持ち星の勉強に一生けんめいでした。

当時の博物館は勸業館の中にあり、そこに宮本さんはじめ、古庄さん、小林さんと星好きの人が集まり、昭和43年7月7日には総会に63人もの人が集まり、会長には熊本大学理学部物理学教室の^{おめき}小賢先生、副会長には西岡さんが、これで熊本天文研究会も完全復活です。

この頃から宮本さんは天体写真用 高性能のライトシュミットカメラを制作され、天文雑誌に記事が掲載されると、全国から驚きの声上がり、全国の上級天文ファンから連絡・問合せがあったそうです。

会員の中の数人も刺激されて、初心者向けの反射望遠鏡の製作を試みる者がふえました。私もその中の一人です。大変根気の要する仕事です。うまく出来ても半年はかかるのが普通です。宮本さんには度々お邪魔してお世話になりました。おかげで何とか完成し、星を見る会でも使えました。

研究会では更に大型の望遠鏡を備えた天文台を造ろうという気運が高まり、場所は望のきれいな所、会員の豊島さん、中島さんの住所・城南町が候補に上がり、城南町長さんはじめ多くの方にお世話になりました。

次の大きな問題は資金集めです。先づは我々天文研究会の
会員自身が本気な所を見せないと始まらないということで、
1人10万円!と誰かさんが言ったばかりに後で苦勞したよ、という
声も聞こえて来ました。でも、これが切っ掛けでみんなの決心が
ついたようにも感じました。でもそれだけでは全くお話しになりません。
結局天文台建設期成会を作ることになりましたが、期成会の方
たちの中には天文におなじみでない方もおられますので、スライド
を使って星の美しさ、望遠鏡で見た天体のすばらしさなどを
理解して頂き、天文台建設趣意書を作って、各銀行、牧道
関係などを廻るのですが、これも宮本さんが主力、大変でした。

その後、予定の1430万円に近い募金が集まり、いよいよ、昭和57年
5月16日に開所式の運びとなり、150人を超える人達が集まりました。
ご苦勞が実った宮本さんが一番お喜んでいたと思います。あちこちから
おめでとうございませう!の声です。

こうして完成した天文台と望遠鏡は現在も活躍しています。

新しい台長 豊島さんの下で若い運営委員の方々が天文普及に
努力されています。

話変わって宮本さんは平成12年(2000年)から野の花の写真
撮影に私を誘って下さったのです。私は大喜びでお伴することに
しました。最初が4月22日砥角町の雁侯山でカタクリの花、次に
5月25日は波野村のスズラン。ときれいな花を春め車の旅です。

次の年から北川さんが加わり、3人で。最後に強烈に印象に
残っている花があります。それは阿蘇一の宮町の「オキナグサ」です。(平成20年)
宮本さん!長い間 本当にありがとうございました。5月13日。

宮本さんとの思い出

元島 威

ここ数年、年のせいか早起きの私は起き出すと間もなく外に出て当日の天気の確認することが日課になっています。昨今の夜明け前の空は晴れていれば星たちで賑やかです。南中を少し過ぎた冬を代表するオリオン座やおおいぬ座、東の空にはお互いが近づいて輝いている金星・木星・火星たち。しばらく星座をたどっていると薄明が始まり最後まで輝いていた金星やシリウスもやがて薄らいで消えていきます。去る9月、私たちは偉大な星：宮本幸男さんを失いました。世の習いかも知れませんが残念でなりません。

宮本幸男さんと私との出会いは、ご息女悦子さんとの出会いに始まるかも知れません。昭和40年代の前半、私は駆け出しの教師でした。教師を目指しておられた悦子さんの受験指導、大学合格後は私と同じ理科（地学分野）を専攻しました。そのような中で悦子さんは時折父幸男さんのことを話しておられました。幸男さんがオーディオ機器の自作をされること・目がよく見えるうちにと星空に強い思いを寄せられ望遠鏡の制作に情熱を傾けておられることなどを伺っていました。手先も器用で様々なことに興味関心を持たれ情熱を傾ける方なのだと想像していました。

ある観望会するとき、それはたぶん秋深まったところか冬の初めで、工事中の九州縦貫高速道路の道路敷で行われました。その地は私の自宅から比較的近い場所でした。私は自宅に6～7名の生徒を泊めることとして、5人乗りのライトバンに全員を乗せ起伏のある未舗装の道路敷に残る工事用車両の轍をたどり観望地点まで行き、生徒たちとともに参加しました。多少オッチョコな私のことですから、定員オーバーでやって来たことが宮本さんの耳にも届いていたのですが、ニコニコと終始笑顔で星座や星雲・星団・望遠鏡の話など大変楽しく時間の経つのも忘れたぐらいでした。そのときのこれ以外の記憶は遙か忘却の彼方になっていますが、一つだけ、生徒達もそうだったと思うのですがオリオン座が南中するころ南の地平線近くに南天の老人星：カノープスを初めて見たことが昨日のことのよう鮮明に残っています。真夜中になって、その感動を胸に自宅へ帰りました。また、アンドロメダ座M31が双眼鏡で観望できることを知ったのもこの頃です。今思えば少々きわどい行動もありましたが、古き良き時代？の一コマです。

私は理科（地学）の教師でしたが、初めて天文教材の単元に入るころまではある時期の北斗七星がやっとわかる程度でそのほかの星座がその季節にどの方角の空に見

えるのかなどほとんど知りませんでした。教えるためにはどうしても関連知識や自らが興味関心を持つことが必要です。活動を始めた天文台の望遠鏡で、私にとって初めての四大惑星の姿を見せてくださったり、連星と重星の違いや共通点をわかりやすく解説いただいたのも宮本さんと天文台会員諸兄でした。また、団体会員として高校地学部生徒達をつれて参加した観望会でお世話いただいたことなどそんな昔のことには思えません。

必要に迫られて何とか読んだ教科書鈴木敬信著「天文学通論」、それは私にとってあんまり面白いものではありませんでした。私にとって星や星空の楽しさを知るきっかけをくださったのは宮本幸男さんでした。その後、部分日食があるからと校庭に投影用の望遠鏡を用意したり、学校長に無理を言っただけの校庭での星空観望会や水星を見る会などができたのも宮本さんや天文台会員諸兄のおかげでした。

県民天文台の草創期、天文台予定地の藪への現地確認・草刈り。天文台建設資金のための募金活動などでの宮本さんの情熱と誠実さ真摯さに何度も触れました。宮本幸男さんは自作の飛行機でどこを飛んでおられるのでしょうか？ きっと県民天文台の上空や広く星空の見えるところをニコニコして楽しんでおられることと思います。

宮本幸男さんの思い出

山本重信

私が、宮本さんと初めてお会いしたのは、もう30年以上前のことです。

最初、宮本さんへ電話をかけて、南熊本のご自宅へ行きました。

宮本さんのことは、天文ガイドや天体望遠鏡の作り方等の本で見えていたので、すごいライトシュミットカメラを日本のアマチュアで最初に作った人だということ知っていました。そんな有名な人が熊本にいたことが、信じられませんでした。宮本さんのご自宅で、天文についていろいろお話をしましたが、私の話を本当に熱心に聴いてくださいました。私の話は、宮本さんの望遠鏡自作のことに比べれば非常に初歩的なことなのですが、全然ばかにせずに聞いてくださいました。

その頃、天文台は、城南町藤山に建設中であり、建物の基礎の中に、丁度ピーアが、ぽつんと建っていました。それから数ヶ月して、ミカゲ光機から31cm反射望遠鏡が搬送されてきました。みんなで、今か今かと到着を待って人力で部品ごとに2階へ運び上げました。夢のような出来事でしたので、天文台で夜明かしすることがよくありました。その後、運営委員を数年やりましたが、矢部へ転勤となり、なかなか運営も出来なくなりました。その後、熊本へ戻った後、今度は、宮本さんが、清和高原天

文台の台長となられたため、宮本さんが、住んで居られた清和村の借家へ遊びに行ったりもしました。

その後は、何かと公私共に忙しくなり、あまりお会いする機会がありませんでした。今となっては、もっといろいろなことを語り合っておけば良かったかなと思います。それでもまだ他にもいろいろな思い出がありますので、心にいろいろ浮かんできますが、取り留めなく長くなりそうなので、この辺で筆を置きます。宮本さん、いろいろな思い出をありがとうございました。

宮本さんの思い出

中島 尚

宮本さんと初めて会ったのは、まだ大学生の頃だった。高校の同級生が宮本さんを訪ねるというので、ついて行った。オーディオの自作が趣味だったので、JBLのLE8Tが鎮座する部屋でコーヒーをいただいて感激したのを覚えている。熊本天文研究会に入会して、観測会に南熊本のAコープ裏に集まっていたのが懐かしい。新年会では都留先生の家押しかけ、秘蔵のワインを飲み上げてしまったりとか、楽しい時間だった。大学卒業後、下益城城南中学校に就職して理科を教えることになった。今思えば運命的な就職先だった。天文台建設の話が始まり、何度も宮本さんの家に集まっては、深夜まで話し合いが続いた。

その中でも思い出深い出来事がいくつかある。一つ目は、寄付集めをすることになり、熊本日々新聞社へと宮本さんの車で出かけたときのことだ。電車通りを進んでいき、無理矢理新聞社の入り口に向かって左折したときのことだ。「がーん!!」という音と衝撃を感じた。後ろを振り返ってみると、バスにぶつかったバンパーの一部が道に転がっていた。しかし、宮本さんは「中島さんは先生だけん、こがんとこで事故ば起こすとまずか。このまま逃げましょ。」と言って、スピードを上げて逃げ切ってしまったのだ。後日聞いたところでは、こっそりと部品は回収されたそう。そしてバンパーは、中古部品屋さんで調達して直したということだった。

二つ目は、天文台建設に向けて敷地の草刈りをしていたときのことだ。刈った草を集めて燃やし始めたとき、風にあおられた火があたりに燃え広がり始めた。みんな慌てて火を消そうとするのだが、強風にあおられてなかなか消えない。すると、宮本さんはジャケットを脱いで火をたたき始めたのだ。今、火事なんかを起したら天文台建設計画はつぶれてしまう。なんとしても消さなくてはという意気込みだった。しか

も、消しながら「中島さん、ああたはここにおらんだっけんな。たとえ火事になっても、ここにはおらんだったことにしときましよう。」とおっしゃる。公務員だった私の身分を心配しての言葉だった。

こんな宮本さんの心配りと誠実な人柄が、天文台建設という結果を生んだのだと思う。熊本県民天文台、熊本市立博物館、清和高原天文台といくつもの天文関係の結果を残された宮本さんだ。私も天文台創建当時の宮本さんの年を超えてしまったのだが、宮本さんのバイタリティーにはとても及ばないと感じている。しかし、これからは熊本県民天文台で運営を続けていくことが、宮本さんへの恩返しかなと思っている。

宮本幸男さんを偲んで

小林昌樹

宮本幸男名誉台長の訃報に接して、以前熊日新聞に掲載された「天翔る夢少年のどくとく」の記事を読みながら、名誉台長の思い出に浸っています。

私がはじめて宮本さんにお会いしたのは、熊本県民天文台の開台記念講演会でした。その挨拶の中で、天文台建設のための募金活動をするなかで小学生から募金を受けたことを紹介されるなかで感極まってか、言葉を詰まらせていました。暖かな人柄に引き付けられ、勝手に天体写真の師匠になってもらおうと、私は天文台に入会しました。

入会后私は、宮本さんのご自宅をたびたびお邪魔して、天体写真や、ライトシュミットのことなどのお話を聞かせていただきました。メーカー製のライトシュミットを購入した際に、宮本さんに意見を求めたとき、C Pの設計が不十分とのお話で、内心がっかりもしましたが、何よりも機材の性能を突き詰めようという姿勢に究極のアマチュアリズムを感じました。ハレー彗星が接近した際に、後に村立天文台が建設されることになる清和高原で、2台のライトシュミットを並べて撮影できたことやオーストラリアへのツアーで一緒できたのが、私にとってのなによりも自慢です。心よりご冥福をお祈りいたします。

存在感の大きな方でしたので、喪失感は当分の間消えそうにありません。

宮本さんの思い出

西嶋好美

私が熊本県民天文台に参加するようになった時には、すでに清和高原天文台の台長になっておられた宮本さん。1993年の清和でのスターフェスタが最初で最後の出会いだったと記憶しています。宮本さんに紹介するから、と天文台の中に連れて行ってくれたのは誰だったか覚えちゃいないんですが…たしか、天文台の中での一般公開がひと段落して、ゆっくりできる時間になった時に、国吉さんたちと一緒にいろいろお話を伺いました。

もうすでに伝説と化している方にお会いするということで、ドキドキしていたのですが、何にも訳が分かっていない新参者の私にも、とても優しく、親しく声をかけてくださって、嬉しいやらほっとするやら。天文台のこと、星のこと、望遠鏡のこと、目をキラキラさせながらお話しなされた宮本さんの優しい笑顔が、今でも目に浮かびます。

今は身軽になって自由に宇宙を飛び回っておられるのかな？新しい遊びを見つけられたかな？

宮本先生お世話になりました

高田祐一

今からちょうど30年前、1985年12月に、熊本県民天文台の日曜日の運営委員になった。日曜の担当は、その時台長だった宮本さんと、教育学部の木下さんだった。望遠鏡の操作、天文台を訪れるお客さんへの対応を宮本さんから教わった。その中で、お客さんにいつも真摯に対応される姿を見て感激したのを覚えている。これを書いてあらためて気づいたのだが、30年も運営を続けてきたのは、このとき感動があるからだろうと思う。年が明けて、1986年オーストラリアのハレー彗星ツアーに宮本さんは解説員として参加された。私はそれに同行して2週間にわたって寝食を共にした。夜は牧場で星を見たり撮影したり、明け方になって帰ってきてホテルで寝る。昼ごろ起きて、朝食と昼食が一緒になったのを食べる。そんな生活の中で面白い話をたくさんしてくれた。

学生の頃山に登っていて、山で見る星の素晴らしさ、そこで学友から聞いた星の物語がとっても面白くて興味をもったこと。同じく、山の帰りに遭難した遺体を手伝ってふもとまで運んだこと。その為、大学の出席日数がぎりぎり足りなくなってあやうく留年しかけたこと。いずれも戦時中の話。

戦争が終わって、一時東京の新しくできたばかりの会社で働いていたが、「その社長が女好きで、いつも奥さんを困らせてばかりいたので、イヤになってやめた。」

と笑って話された。本当のところは違うだろうけど、私相手におもしろおかしくしてくれたのだろう。（後から別の人に聞いたところ、幹部候補として採用されていたそうで、後にこの会社は世界的な大企業になるのだが、そのままこの会社に残っていたら、宮本さんはどんな製品を世の中に出していたのだろうと想像してしまう）。

大学 3 年のときバイクで日本を旅すると言ったとき、それならばと各地の知り合いを紹介してもらった。おかげで「県民天文台で宮本先生と運営をやっている」と言うだけで無賃宿泊を重ねることができた。

私の結婚報告に琴平の自宅に伺うと、奥さんから「あなたが天文ばかり一生懸命になって、ずっと結婚しないのではないかと、主人が心配していたのよ」と真顔で言われたこともあった。ちなみにずっと天文仲間を見守り続けた奥さんから「天文やっている人は、悪い人はいない、みんな良いひとばかりよ。でも変わった人が多いわね」と名言もいただいた。

熊日連載「わたしを語る」に「オーストラリアで聞いた話がないですね」と言う。「本当におもしろいことを書いても、そのところを記者さんが削ってしまうものな」と嘆いておられた。

最近、整理のために昔のビデオをみていると、清和スターフェスタ会場での宮本さんの挨拶の姿が見つかった。

「世の中には、けっしてお金で買えない、贅沢な時間があります。」

本当に、運営やって、星見て、写真撮ってと、いっしょに素敵な時間をすごさせていただいたなと思います。

10/16(金) 菊陽町ふれあいの森研修センター で

研修センター主催の

「星空観察会」

PM2.5がすごくて、大気の透明度が悪かったけど・・・
何とか星が見えて、皆さん大喜びでした



■参加者 10組30名、施設のスタッフ3名

■望遠鏡 15cm屈折+MS4、12cm屈折+GPD、7×50双眼鏡
研修センター常備の8cm屈折+ポルタ

■観察の対象(望遠鏡で)

三日月・土星(これらは、スタッフだけ)

ベガ、VVスター、アルビレオ、はくちょう座X-1、M31

※ ポルタに載せた屈折鏡筒を、自由に触ってもらったら・・・、結構な人ばかりになって
いました。施設長さんが奮闘して、いろいろ星を導入して下さったようです。

■質問 熱心な子どもが多くて、たくさん質問がありました。

アンドロメダ座ってなに？

アンドロメダ銀河ってなに？

アンドロメダ銀河は、どこに見える？

どうして誕生月の星座が、違う季節に見えるの

地球と太陽は衝突しないのか？

アンドロメダ銀河と銀河系が合体するとき、太陽や地球はどうなるのか？

ブラックホールはどうやってできる？

星が潰れるって、どうして？

地球は吸い込まれないのか？

太陽の最期の時に飛び散るガスはどうなるのか？

.....

質問に答える形で、秋の星空解説や、星座早見の使い方、季節の星空と地球と銀河系、
等々、解説しました。

10/13(土) ロンドンブリッジ インターナショナルスクール 11家族 34名 が「ほしのかんさつかい」

そこへ、市内のボーイスカウトの一団 15名が合流!

一般のお客さんも加わって・・・、観測室は満杯でした!



予約が入っていた団体さんが、駐車場に集まったところへ、熊本市内のボーイスカウト15名（予約なし）が加わったので、19時の開台と同時に猛烈な賑わいになってしまいました。さらに、3家族9名くらいの一般来台もありました。

50名超の人で、観測室は、一時身動きできないほどの大盛況でした。

望遠鏡では、天王星・海王星・ペガを観察。星空を見上げながら、夏の大三角、はくちょう座のX-1、北極星、ペガサスの四辺形、フォーマルハウト、デネブカイトス、アンドロメダ大星雲などを説明。ロンドンブリッジの幼稚園児達は「惑星」について勉強してきたそうで、たくさんの質問が飛びだし、とても賑やかでした。

途中、1階では、「ロンドンブリッジ」の団体さん向けに電子紙芝居を使った解説を実施。

1. 惑星の特徴と、太陽系の惑星の回転（公転）の様子
2. リクエストにより「恐竜と星空」を上演
3. アンドロメダの物語と秋の星空

最後に、ロンドンブリッジグループの記念撮影をして終了。

観察会の間は、うまい具合に晴れてくれたので、ラッキーでした。ロンドンブリッジ・インターナショナルスクールの参加者には、お土産に、アンドロメダ大星雲の写真（解説文付き）をプレゼントしました。

「星の観察、幼稚園児でも楽しめるかしら？」と心配していたそうですが、「解説付きで星空を眺めるのって、とても楽しい！」と、とても喜んで下さいました。ほとんどの家族が「また来ます！」と言い残して、家路につかれました。

ふうーーーーー！ ポータブルアンプを使ったのに、終わったら、声がかすれていました。補助講師をして下さった西嶋さん、ありがとうございました。

10/10(火) 大韓民国 全羅北道 淳昌郡 から 「視察団」が 来台

アマチュア天文台開設の経緯や、運営の工夫などについて質問がありました
こちらからは、立地調査や運営目的の明確化が重要だとアドバイス



■ 韓国から視察団

午前中に、韓国淳昌（スンチャン）郡からの視察団11名が、来台されました。淳昌は韓国南西部の内陸部にある地方自治体です。地域振興策の一つとして、「公開天文台」を開設できないか、考えているのでしょうか。「韓国内でも他の地域には公開天文台がある。しかし、利用者が少ない施設もある。」「アマチュアが造って、運営も行い、とても少ない費用で、利用者が多い、そう聞いて視察に来た」とのこと。

「そちらの立地条件はどうですか？」と聞けば、霧が多く、それも濃霧になることがあるそうなのです。こりゃあやバイと思ったので、「天文台建設に適した立地であるのか？ しっかり調査をした方が良いですよ」と、厳しい意見を言っておきました。

先方は、県民天文台がアマチュアが作った天文台で、わずかな予算で建設も運営もできていることに深い興味を持たれた様子でした。「望遠鏡はいくらで買ったのか？」などと質問されましたが、「何を見るか、どう使うか、決めていますか？」「それが決まらず、コンサルタント業者に任せると、バカ高い望遠鏡を買わされますよ」と、これまたちょっと冷たいアドバイスをしてしまいました。

■ 企画室に勤務の日本人女性

一行を引率しているのは、郡庁企画室に勤務する澤さんという日本人の女性。巧みな韓国語で、私が話す内容を翻訳して、視察団の皆さんに説明して下さいました。シンチレーションなど、日頃馴染みのない言葉が出てくると、通訳するのが大変だった様子。私も、できるだけ短く話を切って話すように努め、通訳がし易くなるように、意識して説明しました。一行(行政側?)にとっては、中国から飛来する黄砂やPM2.5、霧と街灯りの影響についての話題も、意外なことだったようです。

とても熱心に次々と質問をして下さるのです、とはいっても、到着が遅れたため、視察と意見交換の時間が1時間ほどしかとれず、核心に触れることができたかどうか・・・
昨年度の事業報告書を、資料として提供しておきました。

最後に、「設立の経緯など、沿革が分かる資料はないか?」と求められましたが、あいにくその手の資料は作ってありません。機関誌「星屑」のデジタルアーカイブ化ができたところですが、設立の経緯などに関わる部分(天文台開設以前)については、公開するかどうかはまだ

決まっていませんからね。

■ 良い効果を期待!

今回の視察への対応で、淳昌での公開天文台建設計画に、少しでも良い影響を与えられたのなら、嬉しいのですが、さてどうだったでしょうか?

※ 帰り際、募金5,000円をいただきました。



11/15(日) 恒星社厚生閣 から 出版されました 「あなたもできる デジカメ天文学」

”マカリ” パーフェクトマニュアル 定価(本体2,700円+税) amazonでも取扱

★★★ これからのスケジュール ★★★

12/4(金) 城南公民館講座

「星空観察会」 秋の星座、冬の星座

☆☆☆

19:30～ 21:30

県民天文台で開催

☆☆☆

☆☆☆☆ ちょっと一服

Poem & Illustration

今年の秋が早かったので、冬も早くなるのか…と思っていましたが、いつまでたっても初秋の陽気。9月の夜のあの寒さがウソのようです。で、しばらく続いたカラカラ天気が一転、11月に入ったら今度は連日の雨…星空が見えません。

とりあえずは、晴天続きだった10月の夜明けの東天を連日楽しむことはできました。おかげですっかり寝不足になってしまいましたが。日ごとに金星・木星・火星と水星、しし座の星たちの位置関係が変わっていく様子に、たとえ少しずつの微妙な動きであっても、惑星が太陽の周りをまわっているんだなあ実感。

そして、早くなる夕暮れと、遅くなる朝の薄明が確実に冬に向かっているんだなあという実感も。



薄明

しんと静まり返った 5時30分の 空
満天の 星の 中

滑り落ちていく夜を
追いかけながら
木製の夢は疑問符を描いている
忍び足の猫が
不敵なまなざしで狙いをつける
金色の自信に満ちて
逃がさない
爪の先の真っ赤な
火種の出どころは闇の中
一瞬のすきについて
消えることも現れることも
水のように自由自在な
やがてやって来る
きょう という一日

遠くで自動車の走行音がつながり始め
勢いよく朝を引きずっていく
どこかで鳥が 一声叫ぶ
空には一つだけ穴が開いていて
微かな光を漏らしている



2015年10月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 13日／14日＝92. 86%
一般来台者数 358名

総開台日数 14日
会員来台数 34名

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
2 日 (金)	晴れ	小林 J 高田 西嶋	8 人	土星、アンタレス、M31,M13,M32,アンタレス γ 海王星,天王星,フォーマルハート 快晴→曇り→快晴へ。小さな子ども連れの2グループは M31 まで。熱心なリピーターさんが増えたように感じます。
3 日 (土)	快晴	中島 小林 J 中島	3 1 人	土星、アンタレス、M22,M8,M31,And γ 今日は大賑わいでした。特に小さい子どもが多くて、活気に満ちあふれていました。 彗星写真撮影（北極星と一緒に）
4 日 (日)	晴れ時々曇り	艶島 小林 M 艶島	1 0 人	ベガ、ww,M31,M22,M17,土星,アンタレス 最後にやってきた3人組のお客さん、星野写真の撮影法を教えて欲しかったようです。年齢の違う人たち、同じ職場なのでしょうか。最近、こんな来台者が増えています。 パンスターズ彗星撮影
8 日 (木)	晴れ	艶島	130 人 + 4 人	菊陽西小学校 小学6年生対象 「月と太陽」まとめの授業 詳しくは記事を参照して下さい
9 日 (金)	晴れしかし薄曇り	小林 J 高田 西嶋	1 0 人	土星,And γ,M31,M13,WW,アルビレオ,フォーマルハート 空全体が薄曇り。ぼやけた空でしたが、皆さん楽しんでいられました。
1 0 日 (土)	曇り	中島 艶島小林 J 小林 M 高田 西嶋 中島	0 人	Talk About 星屑発送・来月の予定・星屑記事について
1 1 日 (日)	晴れ	艶島	7 人	ベガ、WW,M57,M31,アルビレオ,スバル 19時頃は透明度が高くて天の川がよく見えていたのに、次第に透明度が低くなっていった。

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
1 6 日 (金)	晴れ	小林 J 高田 西嶋 艸島	1 人 3 3 人	月、ベガ、アルビレオ、M56,M57,M27,M71,M29,M39, M52,M103,M76,M34,M33,M31,M32,M15,M2 菊陽町ふれあいの森研修センター星の観察会 詳しくは記事を参照して下さい。
1 7 日 (土)	晴れ	中島 小林 J	3 2 人	土星、月、ベガ、アルビレオ、M57,M22,M31,h-x,And γ M45、北極星 賑やかな夜でした。月の撮影など皆さん楽しんで いらっしやいました。最後の方は望遠鏡にカ ラをつけて撮影をして、とても感激して 2, 0 0 0 円も寄付をされました。
1 8 日 (日)	晴れ	艸島小林 M	5 人	月、アルビレオ、ベガ、M57,M56,M31,M45,WW 観測執拗に小さな時計を持ってきました。電波 時計で温度湿度計付きです。終了時気温 13.2 ℃。今年の冷え込みは早いです。
2 3 日 (金)	曇り → 晴れ	高田小林 J 西嶋	2 人	月、And γ、アルビレオ、ベガ、WW、スバル、h-x 夕方から雲が広がり、雲間に月が見える程度。 閉める直前になって晴れましたが・・・。閉め たらお客様が来られました。
2 4 日 (土)	快晴	中島 中島	2 1 人	ベガ、カペラ、ホテルキウス、And γ M57,M45,M36,M37,M38 など ずっとお客さんが途切れることなく続々と。 最後は「何時までやってらっしゃるんですか？」 と聞かれてみると 1 0 時 3 0 分近くに。昔の生 徒が 3 5 歳!!私の声で暗闇でも分かったとか。 月の撮影
2 5 日 (日)	晴れ	艸島 小林 M	6 人	月、ベガ、WW、M57
3 1 日 (土)	晴れ	艸島 西嶋	5 8 人	ロンドンブリッジ 3 4 人 ボーイスカウト 1 5 人 一般 9 人 海王星、天王星、ベガ 詳しくは記事を参照して下さい。

大掃除&忘年会のお知らせ

12月12日（土）

13時～
終了後

大掃除

Talk About・忘年会

涼しくなるのが早かったなあと言った後、生暖かい日もありましたね。衣替えをしたばかりなので、着る物が大変でした。仕事場では冷房入れたり、ホント季節感無しです。南国ですから、しょうが無いのかも…。さて、もうすぐ「しし座流星群」が見られます。月明かりも無く、条件は良さそう。後は頑張って、夜明け前に起きられるか…。

☆ 12月の天文現象 & 行事 ☆

- 3日(木) 海王星が東矩(13:56 7.9等 視直径02.2")
下弦(16:40)
- 7日(月) 大雪(たいせつ … 寒気ますます盛んとなり、大雪の気配も強くなる)
- 8日(火) 夜明け前の東の空で、金星と月が大接近
C/2013 US10 カタリナ彗星が明け方に4等台
- 11日(金) 新月(19:29)
- 12日(土) トークアバウト(20:00～ 変更の場合あり)
大掃除&忘年会 13:00～ 大掃除終了後Talk About その後忘年会
- 14日(月) 15日未明にかけて、ふたご座流星群が見られる
- 15日(火) ふたご座流星群が極大
- 16日(水) 木星が西矩(17:02 -2.1等 視直径37.2")
ちょうこくしつ座S星が極大(5.5~13.6等 周期363日)
- 19日(土) 上弦(00:14) 月面Xが見える
- 22日(火) 冬至(とうじ … 太陽が黄道の南限にあり、北半球では最も昼が短い)
- 24日(木) アルデバランの食(05:32 福岡:暗縁から潜入)
- 25日(金) 満月(20:11)
- 26日(土) うさぎ座R星クリムゾンスターが極大(5.5~11.7等 周期427日)
天王星が留(20:21)
- 29日(火) 水星が東方最大離角(12:12 -0.5等 視直径06.8")

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2015年12月号 通巻489号
発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
熊本県熊本市南区城南町塚原2016番地 熊本県民天文台
TEL 0964-28-6060
振替口座 01700-5-105697
NPO熊本県民天文台事務局
天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス astro@kcao.jp
メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで